第 4 回食と生命のサイエンス･フォーラム開催
（東京大学伊藤謝恩ホール）
Tokyo, Japan, 11 15, 2014

11 月 15 日東京大学総括プロジェクト機構総括寄付講座「食と生命」、ネスレ栄養科学会議、ネスレリサーチ東京の共同開催による「第 4 回食と生命のサイエンス・フォーラム:子どもの肥満と食育～広がる健康対策の成果をたどる～」を開催いたしました。

当日は、学生を含む学校、保健福祉センター、栄養士、医療関係者や一般企業、報道関係者などから 200 名を超える方々にご参加いただきました。

【開会挨拶】

ネスレ栄養科学会議理事長･東京大学特任教授　阿部啓子

阿部先生による開催挨拶で、「第 4 回食と生命のサイエンス・フォーラム」は幕を開けました。

【栄養･健康･ウエルネス企業をめざすネスレの取り組み】

ネスレ日本株式会社

コーポレートアフェアーズ統括部長　メラニー･コーリー

コーリー氏は、ネスレの基本戦略である「共通価値の創造」と「子どもの肥満と食育」に関するネスレのグローバルと日本での取り組みについて紹介しました。

（スピーチ内容）

【ご挨拶】

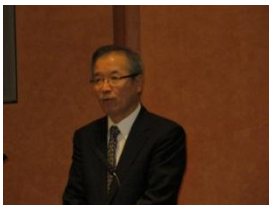
独立行政法人国立健康･栄養研究所理事長　古野純典

古野先生は、ここ 100 年間の日本の子どもの健康体力調査結果を踏まえ、子どもの栄養について定量的にものごとを見る必要性があると述べられました。

以下、基調講演と講演 1 は古野先生、講演 2 と講演 3 は東京大学特任教授加藤久典先生にそれぞれ座長を務めていただきました。

【基調講演】「子どもの肥満の現状　臨床の現場から」

神奈川工科大学特任教授　岡田知雄



【基調講演】「子どもの肥満の現状　臨床の現場から」

岡田先生は、小児肥満と生育環境の変化を経年的に調査した結果や、肥満児の内臓脂肪や血管・代謝危険因子を測定した調査、低体重出産や女子の痩せの問題について説明されました。

（発表資料）

【講演 1】「徳島県における生活習慣病予防活動;最近の肥満児出現率の減少」

徳島県総合健診センター診療部医長　勢井雅子

勢井先生は、糖尿病死亡率全国 1 位、子どもの肥満率も非常に高い徳島県での、生活習慣病予防対策委員会による、徳島県内全小中学校を対象にした取り組みについて紹介されました。

（発表資料）

【講演 2】「子どもの肥満予防・改善における栄養と運動の重要性」

兵庫県立大学環境人間学部教授　永井成美

永井先生は、日本の子ども全体でみられる、エネルギー摂取量が増加していないのに肥満が増えているという現象について、食事と運動、自律神経機能との関係を調査した結果について説明されました。

（発表資料）

【講演 3】「幼児期の食生活の諸問題」

相模女子大学大学院栄養科学研究科教授　堤ちはる

堤先生は、幼児期からの心と体の健全な発育・発達を支援する際に、保護者の気付きを促し行動変容に導くための、専門家にとっての注意点について説明されました。

（発表資料）

【パネルディスカッション】

ネスレ栄養科学会議理事・京都大学大学院教授　森谷敏夫先生がモデレーターとなり、講師 4 人と会場とで活発な質疑応答がなされました。

【ネスレ栄養科学会議 2014 年度論文賞授賞式】

2014 年度は、九州大学大学院農学研究院の熊添基文氏、鈴鹿医療科学大学薬学部の廣田佳久氏、北里大学薬学部の藤原亮一氏の 3 名が受賞されました。

【閉会挨拶】

ネスレリサーチセンター東京＆北京　ファブリツィオ・アリゴニ

最後に、アリゴニ氏による閉会挨拶で、「第 4 回食と生命のサイエンス・フォーラム」は幕を閉じました

ブース風景

（第 4 回食と生命のサイエンス・フォーラム詳細プログラムはこちら）

食と生命のサイエンス・フォーラムは栄養と健康の関係をよりよく理解することを目的に、2011 年より毎年開催されています。